



Subaru

男声合唱団

ニュース№709

'19. 10. 2

嶋本晃声楽レッスン(第6回)開講・「死んだ男の残したものは」「草競馬」テーマに

9月29日

□ 9月29日(日) 14:00~17:00 昴定例レッスン・嶋本晃声楽レッスンが開催されました。佃さんの体操のあと、今日は、嶋本晃先生の第6回目の声楽教室の開講となりました。約30分の発声練習、息の出し入れ、お腹と口の中のありかた・・・等を指導いただきました。

伊藤さんの指揮で、まず「死んだ男の残したものは」を合唱し、嶋本先生から、まず、この曲の詞をメロディを付けずに1番から5番まで詠んでいく。この曲の作詞をどう理解し、どう表現するか? どう抑揚をつけるか? この作業をまずやってみよう。曲へのイメージづくりの原点に戻ったレッスンとなりました。

これまでレッスンを続けてきた曲目であり、最後まで発表できる段階に来ている曲にありがちな「曲に対する慣れ」を排し、もう一度フレーズ毎に歌い直すことから曲を作り直す作業をしていくことも必要か? 声楽レッスンで受けたアドバイスを参考にして、この曲を完成させたいものです。

休憩をはさんで、本並先生の指揮で、「草競馬」をレッスンし、嶋本先生のアドバイスを受けました。まだ各パートでしっかりと音の確保ができていない、特に転調後の最初の音が各パートまだ合っていない現状! 何度も繰り返しのレッスンとなりました。先生からは、各パートでしっかりとリズムを刻んで歌えることと同時に、各パート間の音が正しい和音となっているか、他パートの音と正しくハモッテいるか確認しながらのレッスンも繰り返し行ってほしい等貴重なアドバイスとなりました。

最後に、本並先生の指揮で、京都のうたごえ祭典合唱発表の2曲「日々草」「朝露」の復習レッスンを行いました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全26名でした。



□連絡・報告事項

(1)「日うた京都祭典」『音楽会Ⅲ19:00~』

11月30日(土) メインテーマ『平和のバトン』

歌劇沖縄より「労働者の合唱」に出演しましょう!

レッスンの日時・場所は地頁の通りです。

(2)「日うた京都祭典」合唱発表会(B)昴出演

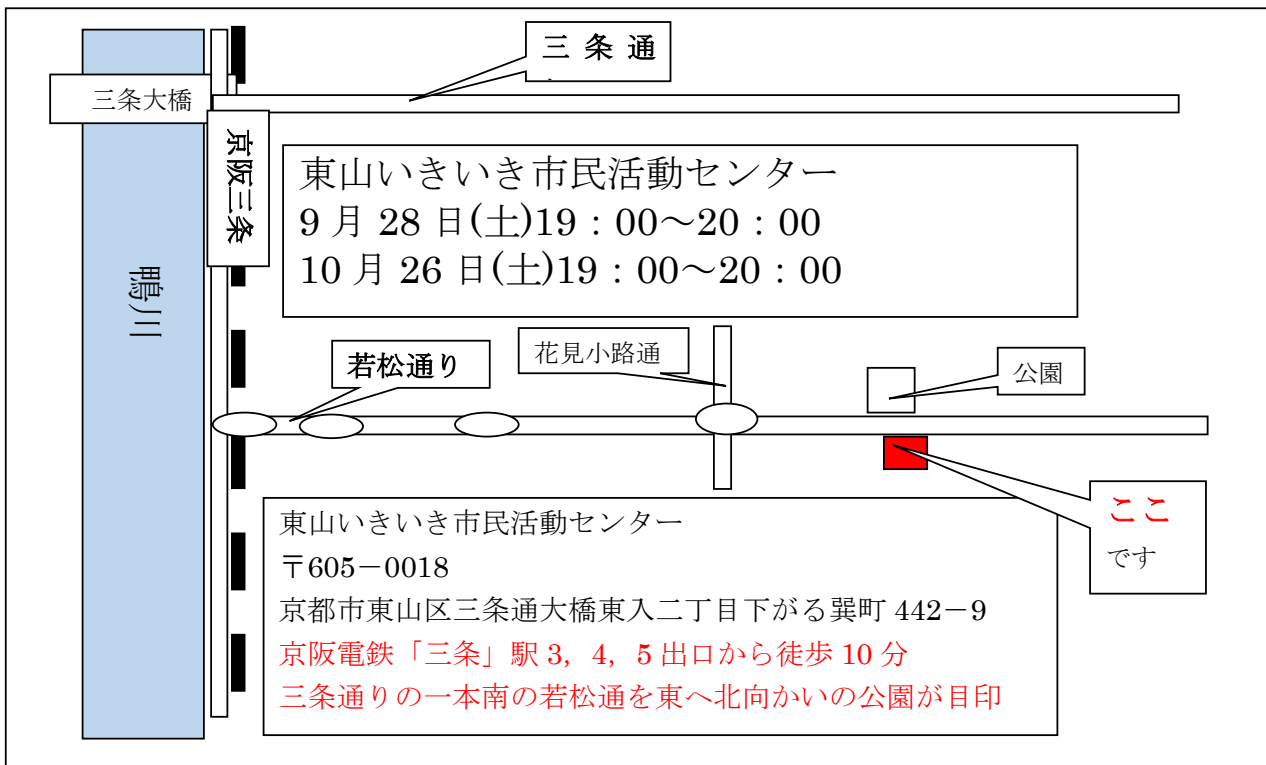
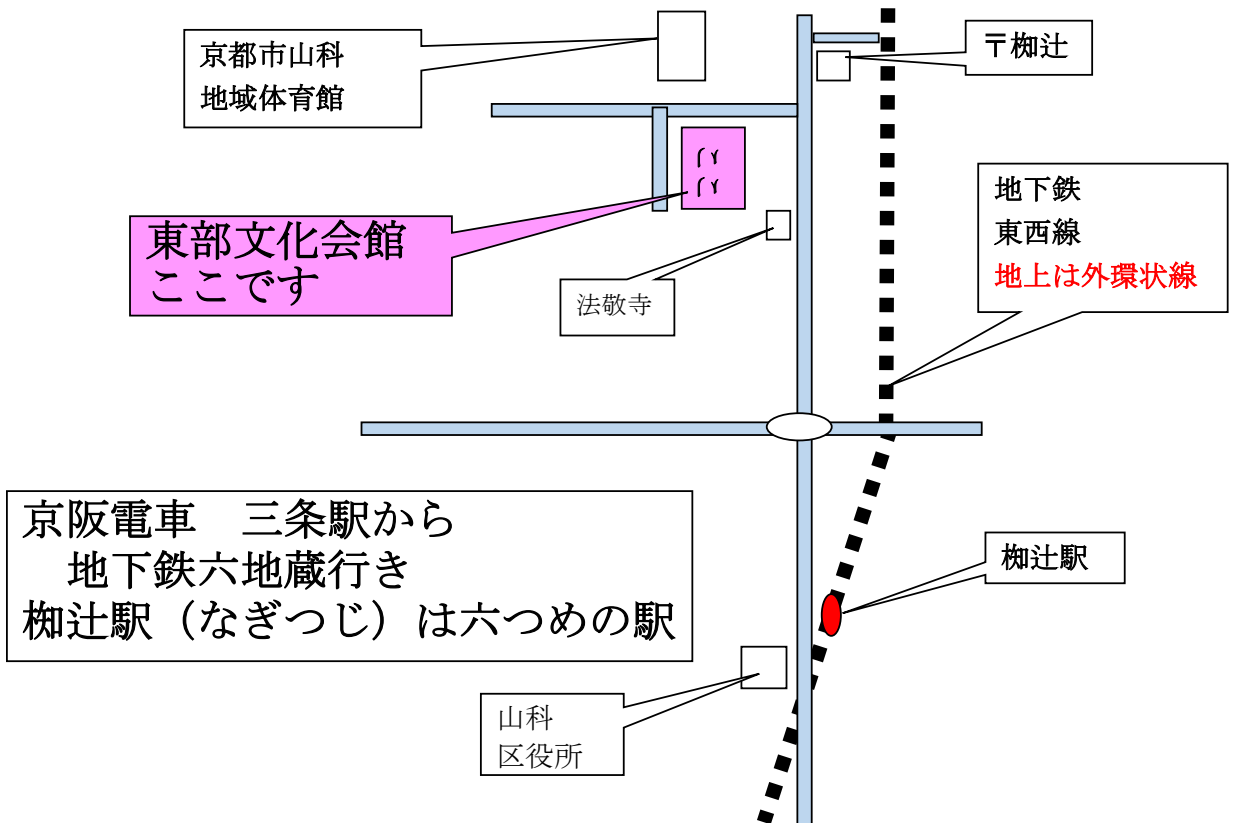
11月29日(金)12:00~

ロームシアター京都メインホール

2019年日本のうたごえ in 京都 「労働者の合唱」 合同練習会

10月22日(火祝)京都市東部文化会館
13:00~14:15 HEIWAの鐘と同時

〒607-8169 京都市山科区柳辻 (なぎつじ) 西浦町1-8



9月22日ビアーレ大阪で開催された創作発表会での「昴」の講評です。参考に！

審査員講評

2019 大阪のうたごえ創作発表会
9月22日 ビアーレ大阪
男声合唱団・昴

講評者	講 評	
	方正の青い空	昴はうたう
A	男声合唱のパート配置を再考してください。例、主旋律を第2テナーに。へ音記号の下部はパートの距離を取ること。	
B	全体として 力強い演奏。思いが伝わる	
C	力作ですが、ちょっと男声合唱の響きが重なりすぎて明るく大陸に吹く風のイメージが出ていません。	立派なテーマソング。生き生きしたメロディ全体の構成の見事さ、うまくできていました。
D	前半は歌詞に沿ったメロディで心に届くが転調から後半はもっと明るくしたい。ここに残るメロディーが欲しい。	合唱団の愛唱歌としていいですね。後半のメロディーと対位旋律のバスのメロディーをもっと豊かに。
E モ 二 タ 一	制作にあたりお世話になりました。演奏ありがとうございました。バスの音が安定されるともっと良いと思いました。	包容力のあるテーマソングです。冒頭の5～11小節はメロディーと和音進行に検討の余地があると思いました。やや自然に入っていない印象でした。
F モ 二 タ 一	難しい内容です。ぱっと聞いてスーッと理解できないですが、事実を伝えていくことは大切なことだと思います。	まとまっていて素敵な男声合唱です。

講評者は名前を伏せ、アルファベットで記しました。

なお、実際の講評者は、林 保雄、野田淳子、藤村紀一郎、今 正秀、山本恵造、榊原昭裕、江文の各氏です。

□「創作の部」で発表されたパレアナ(千秋&二三)に対しても、講評が寄せられています。また講評者の藤村紀一郎さんがフェイスブックに「創作の部」全般の講評を書いております。転載します。

「創作の部 藤村紀一郎氏のフェイスブック」より

「昨年から今年にかけての大阪創作センターの取り組みを反映した力作の集まりであったと思いました。創ったばかりというものではなく、演奏活動を重ねてきて検証され済みの演奏は聞いていて運動を切り開いてきた創作の力を感じました。また、合唱団全体として創作に取り組んでいることが演奏ではっきりと証明されていました。

日本とアジア、沖縄、大阪の未来、など重要な課題を正面から受け止めて、特に、榊原さん、鬼崎さん、などベテランの創り手の皆さんが、良く練り上げて魅力を発揮していることをうれしく思いました。「ちばりょ～沖縄合唱団」の地についた取り組みは光っていました。また、ぼくが心に残るのは、作品が独創的な異色のおふたり「ミルキー2」です。率直であり意外性もあり、2人の演奏

もいい。うたごえの創作とはずいぶん違うので、とても惹かれます。千秋さんの詩の世界を音楽化されている森二三さんの力も魅力的です。僕が創作でかかわった「春を待つ子守歌」のような日常の暮らしの中での思い、家族への思い、などを歌った曲も大阪での創作合宿で生まれていましたが、発表されなくとも生まれた曲を集めて財産とする活動も望まれます。」

(藤村記一郎フェイスブックより、創作のみ抜粋)

□ 土井さんが「日中友好新聞」に千秋さんの「方正」の音楽活動について投稿されました。

**満蒙開拓団逃避行のうたを作曲
方正にある日本人公墓を訪れて**

千秋昌弘さん（男声合唱団昂
团长、元大東市会議員）から満
蒙開拓団の逃避行のうた（千秋
昌弘作詞・森二三作曲）を歌い
広めたいと、大阪府連
に依頼文書と楽譜が送
られてきました。千
秋さんは、昨年日中う
たごえ交流ツアーで、
中国東北部の方正にあ
る日本人公墓を訪れて
感銘を受け、この事を
歌詞にし5曲の作品に
まとめ上げました。

満蒙開拓団は、関東
軍にも日本政府にも捨てられ、
逃避行を続け非業の死を遂げま
した。方正収容所でも3500
人がなくなり、野ざらしになっ
て頂けたらと語っています。ユ
チューブ「千秋昌弘、満蒙の地、
方正のうた」（約17分）で聞く
ことができます。（土井一正）

1963年中国政府によって
略戦争の同じ犠牲者
だ」と、方正地区日
本人公墓が建立され
遺骨が埋葬されてい
ます。この公墓は文
化大革命時も守られ
現在も静かに建っ
ています。

千秋さんは、多く
の集会でこの曲を活
用し、各合唱団で歌っ
て頂けたらと語って
います。



2019年8月号外
日本中国友好協会
大阪府連合会

□ パレアナ(千秋&二三)の講評を合わせて掲載します。

審査員講評

2019 大阪のうたごえ創作発表会
9月22日 ビアール大阪
パレアナ(千秋&二三)

	講	評
講評者	お母さんに会いたいです	日本人公墓
A	曲も演奏も立派で、心を打たれます。	心に残る曲。詩の内容に寄り添った無駄のないいい曲でした。
B	全体として 物語がうかぶ、大切な歴史を伝える仕事	
C	全体として 劇的な作曲で、表現第一の作風です。難しいテーマをうまくまとめています。	
D	オペラのアリアのような劇的な曲の構成、ピアノ伴奏も良く工夫されて印象的な作品ですね。転調の効果的な雰囲気欲しい。	
E	日中友好のことは私にはよく知識がありません。でも、この2曲の歌を通して歴史の事実をちょっとでも知るきっかけとなります。シビアな内容をステキなうたで聞かせていただき、あり	

	がとうございます。
榊原	<p>詩・ナレーションとあいまって、テーマは良く伝わって来ます。ただ、最後の「日本と中国——ください」の節が少し唐突に感じます。ここを取って削る選択肢もあると思います。曲については3連音符とそうでないところの配分をどうするか？がポイントかと感じました。</p> <p>曲への意見です。冒頭のメロディがオチのメロディのようにきこえた。アカペラの部分「れきしから」もっと低い音のほうが..(音符の推奨例:別紙)(全体として)創作合宿で千秋さんに、またレセプション等々森先生にもいろいろとお世話になりました。感謝申し上げます。</p>

講評者は名前を伏せ、アルファベットで記しました。
 なお、実際の講評者は、藤村紀一郎、野田淳子、林 保雄、山本恵造、江文、榊原昭裕の各氏です。

□「関学グリー」と「U Boj!」の記事が載りました。



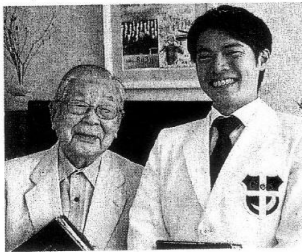
関西学院発祥の地で「ウ・ボイ」を熱唱する関学グリーの部員とOB。関学中学部グリーも参加した=15日、神戸市灘区の神戸文学館

創部120年 熱き傳承歌 関学グリー 29日記念フェス

日本で最も長い歴史を持つ男声合唱団、関西学院大学(兵庫県西宮市)の「関西学院グリークラブ」が今年創部120周年を迎えた。同部が演奏会などで代

々歌い続けてきたクロアチアの愛国歌「U BOJ!」(ウ・ボイ=戦いへ)も日本伝承100周年。29日に大学内で記念フェスティバルを開き、部員やOBら

林浩平部長(右)と祖父慶治郎さん



◆「ウ・ボイ(戦いへ)」の日本語訳(大意、決定版より)
 戦いへ！ 戦いへ！
 剣を抜け！ 兄弟よ。
 我らの死に様を敵に知らしめよ！
 すでに街は炎につつまれ、敵の怒号は狂わんばかりに響く。
 我が胸に炎のごとし、我らの刃音を聞け。
 ブリンスキーに接吻しよう。忠義の有志達よ、続け。(後略)

がウ・ボイを熱唱する。ウ・ボイはクロアチアの作曲家イヴァン・ザイツが1866年に作曲。勇壮なクロアチア語の歌だ。日本への伝承は第1次世界大戦後の1919年、船の修理で神戸に滞在した旧チェコスロバキア軍が当時神戸にあった関西学院内に招かれ、音楽会が開かれた。軍の合唱隊がウ・ボイ

を歌い、それを聴いて感動した関学グリーの部員が楽譜を譲り受けた。以降、関学グリーにとって欠かせない曲になった。
 今年15日、関西学院発祥の地「原田の森」のシンボル、神戸市灘区の神戸文学館(旧関西学院フランチ・メモリアル・チャペル)に部員やOB、中学部グリー部員ら約100人が集まり、節目を祝う記念式典が催され、ウ・ボイを歌った。
 関学グリー部長の林浩平さん(4年)は「『ウ・ボイ』は演奏会のアンコールでよく歌います。今や関学だけでなく、日本中の男声合唱団で広く親しまれています。歌うと、身が引き締まります」と話す。
 林さんの祖父慶治郎さん

(93) 神戸市中央区IIは関学グリーOB。戦時中、学徒出陣で入隊する部員の壮行会では「海行かば」や「ウ・ボイ」を歌いました。私の入隊時も壮行会で「ウ・ボイ」の合唱に励まされました。私にとって、この曲は戦争で亡くなった部員を思い出し、ご冥福を祈る曲でもあるのです」と語る。
 ◇ 29日の記念フェスティバルは午後2時から、西宮上ヶ原キャンパスの関西学院中央講堂。関学グリーやウイメンズ・グリー、中学部と高等部グリー、OB団体の新月会が出演する。ウ・ボイの伝承版と決定版、オペラ版を披露する。入場無料。問い合わせは関西学院グリークラブ(0798・52・6471)。(村瀬成幸)